

## 投稿

# 入会 12 年を振り返って思うこと

投稿者 浦山和幸



平成21年(2009年)の春、豊橋公園で開催された花フェスタの会場で、活動ブースで会の活動内容を知った。以前から里山保全に興味があったので、活動に賛同しその場で役員の方に入会希望を告げ、翌年4月からの入会を許された。4月に頂いた会員証の裏側にそっと入会年月日を記入しておいた、それが平成22年(2010年)4月1日でした。それから12年の歳月が流れました。本会発足が平成13年(2001年)ですので会の歴史の約半分の期間に当たります。入会当初は少し活動に入れ込んださ

らありますが、先輩諸氏の所作を参考に今日に至りました。

まず最初に覚えた木の名前は「クロバイ」でした。林学の履修の経験はありませんが、草木には以前から興味があり、知らない草木があれば図鑑で調べていました。過去にボーイスカウトのサブリーダーの経験もありました。

入会の主な動機は長年海に関わる仕事に従事し別の世界、海の反対の山も体験したいと考えていたからです。海の仕事に関わり40数年、64歳で最後の職場三河港コンテナターミナル(株)を退き、厚生年金の受給者となり、自由な身分が確保されました。以来12年間、まず規則的な生活に留意し、日曜日には特段の予定がない限り岩屋へ行こう決めました。

現在、幸いにも健康面での障害は全くなく、精神的にも何の障害もあり



ません。幸い妻の協力もあり活動を支えてくれています。この9月で77歳を迎えました。入会当初自分自身を紹介するとき勇んで戦後生まれですと半ば自慢げに話していましたが、この言葉も色褪せました。私のモットーは即断、即決、即実行、ことを急ぎすぎて若干の失態もありましたが、大過なく現在に至りました。これからも体力の許す限りボランティア精神を発揮し続けたいと思っています。【写真左：小学生を案内する浦山さん】

\*\*\*\*\*

## 投稿

# 私と岩屋緑地に親しむ会

投稿者 吉見就次



2011年(平成23年)12月19日、私は縁あって蒲郡から豊橋の大岩町へ引っ越してまいりました。その時現在副会長の市川和生さんとは以前から木工関係でお世話になっていたので新天地で仲間を作りたいと思い、次の年の2012年1月1日にボランティアの「岩屋緑地に親しむ会」に入会しました。

それから今年で10年半たちました。今回初めて会報への投稿依頼があり何を書いたらいいのか悩みました。しかし会報を21年間続けられている書記の森祥剛さんに頼むためにお引き受けしました。毎月の活動予定に従い日曜の9時から12時(以前は9時から15時まで)のボランティアです。思い出に残る活動

は数えきれないほどありますが主な活動として視聴覚センターでの、どんぐりキノコまつり、キノコの菌打ち会、虫害枯れ木のヒノキなどの伐採と運び出し作業、じゃぶじゃぶ池のヘドロとブラックバスの駆除、竹林整備とタケノコ堀と市民への配布、西



川会長のリーダーによる地域作りと緑化等による国、県、市による数々の表彰、伐採地の整備と植樹祭、各学校生徒との野外活動の支援、(株)アーレスティとの協働作業、市主催の花交流フェアへの参加、正月の大門松作りと設置、市制110周年企画の桜再生への準備と伐採と植樹祭の実施、公園内の案内看板の修理、四季ときめきの森の整備、チップパーによる伐採枝葉竹などのチップ化作業、北駐車場上の赤松林の再生手入れ、会員による納会の餅つき等の親睦会、新桜広場の植樹と草刈、最近ではコロナ禍で制限のある中での活動であるが、参加者は対策をとり計画に沿って活動しているのが現状です。親しむ会が発足して21年、私が入会してから10年が過ぎました。しかしこれからの10年後を考えると現状の作業は年齢と体力に自信がありません。公園といっても岩屋公園は広いです。快適な公園を保つため、特に草刈は新桜広場完成に伴い増加したので会員だけでは対応できないと思います。季節に応じて草刈り作業の外部からの応援を希望します。健康に良く、長く続けられる作業内容にされるよう希望します。【写真左：植樹したサクラに水をやる吉見さん】

【写真左：植樹したサクラに水をやる吉見さん】